

採血の基礎

◎古森 由規¹⁾
市立四日市病院¹⁾

医師の働き方改革を進めるためにタスク・シフト/シェアの推進が叫ばれている中で、臨床検査技師への要望として採血に関わる業務の拡大がある。昨今では多くの施設で採血を臨床検査技師が行っており、検体検査の大部分で血液検体を用いることから採血は臨床検査技師と切っても切り離せないものであると言える。採血は患者に針を穿刺することから侵襲性があり、合併症のリスクを伴う行為である。それに加えて、我々は検査前プロセスの品質管理の観点から正確な検査データを報告するために採血の手技・データへの影響因子について理解し、正しい採血を行う必要がある。

今一度採血の基礎に立ち返り、「標準採血法ガイドライン試案 第3版(GP4-A3)」やアンケート結果を踏まえて採血の仕方・血管の選び方・データへの影響因子、採血の合併症についてお話ししたい。

市立四日市病院 中央検査室 059-354-1111